

EALAI 研究セミナー第5回

「世界三大美人」と「大正三美人」 を繋ぐもの——和歌と「美人観」 との関連性

1月30日(木) 12:10-13:00



会場：駒場キャンパス101号館11号室 (EAAセミナー室)

オンライン：Zoom(事前登録制) 登録リンクURLはこちらです。

発表者 永井久美子



(総合文化研究科准教授)

「世界三大美人」に数えられることがある小野小町。なぜ「日本代表」が小野小町なのか、その背景をめぐる研究を、発表者はこれまでに行ってきた。平安朝の歌人に「日本文化」の粋を見出そうとする発想が、近代以後の小町伝説の根底にある。大正時代を代表する「美人」とされた九条武子と柳原白蓮がともに歌集を出版した人物であったことも、明治・大正期の「美人観」の特徴の一つである。歌が「美」の評価と結びつく風潮について、記紀神話に登場する衣通姫（そとおひめ）に遡る源流とその変容を辿ってみる。

司会 清水 剛 (総合文化研究科教授)



佐竹本湖《衣通姫》
明治34年(1901) 紙本着色 35.7×72cm スミソニアン国立アジア美術館蔵
Accession Number: S2003.R2151, EDAN ID: edamndmng_S2003.R2151



箱館寄書「南賢楼史」巻第一より衣通姫
明治36年(1903)、東陽堂、国立国会図書館デジタルコレクション

